

と見ることが出来た。

車は、ぼくの家の前にさしかかった。車の中に座っていたのは、疲れ切って、皮膚が艶を失った瘦せた中年男だった。中折帽を被り、背広姿で、目を開いているのがやつとといった表情だった。歓呼の声といったものは全くなく、見物人たちも黙りこくっていた。天皇は、わたしの三メートルばかり先にいた。

よく見ると、天皇の目は、懸命に国民に反応しようとしているようだった。その顔を見て、なぜか、予想に反して、反感を覚えなかった。
まけてしまったのよね、
と声をかけ、敗戦の哀感を共有したい気持ちだった。

その後、天皇に戦争責任はあると考えるようになった。朝まで生テレビでも、天皇の戦争責任については何度も論じ合い、もちろん、天皇に戦争責任はないという論者も沢山いた。だが、ぼくは、天皇を責任の範疇の外に出したのは、日本人に、主体的に戦争の総括をさせないためのアメリカの策略だったと考えている。しかし、これは書きだしたという思想によってなされた。現在にいたるまで、この思想は変わっていない。また、見とおせる将来において変わるとも思えない。この意味で、二十世紀最大の事件は、この文書が書かれた一九四五年に起こったと考えることができる。

タイプ打ちのこの文書は、謄写版で増し刷りされただけで、出版はされなかった(ただし、全世界に配布された)。執筆者が他の仕事で忙しすぎて、原稿を改訂する暇がなかったからである(一次稿の大部分も、列車の中で書かれた)。彼は、通常「数学者」と呼ばれるが、他の分野の専門家は違和感を覚える。なぜなら、多くの分野で「二十世紀最大の業績」といわれるものが、この人物によってなされているからである。経済学も例外ではなく、彼が(多分、他の仕事の合間に)書いた三つの論文が、その後の数理経済学の基本方向を規定した。その業績の重大さは、時間がたつほど強く認識されてきている。

この男——生国ハンガリーでの呼び方では、ノイマン・ヤーノシユ。普通は、米国での呼び名ジョン・フォン・ノイマ

つつも、ぼくは昭和天皇にいささかの反感も持っていない。昭和天皇と一緒に、アメリカが押しつけた戦争観ではなく、主体的に戦争の総括をしたかった。それが出来なかったのは残念至極である。

コンピュータの誕生

野口悠紀雄

(東京大学先端経済工学研究センター長)



後世の歴史家が二十世紀を振りかえり、最も重要な事件を一つだけ取り上げるとすれば、何が選ばれるだろうか？ 社会主義革命や世界大戦は、二十世紀人からすれば、重大事件だ。しかし、後世に与えた影響の大きさと深さから判断すれば、どうだろうか？ 社会主義は結局のところ永続的社会制度とはならなかったし、世界大戦も二回限りで終わった(多分、今後もないだろう)。未来社会に甚大な影響を与えたという意味では、コンピュータで知られている——は、あるとき、「あなたの最大の業績は何か？」という質問に、「ヒルベルト空間の自己随伴作用素の理論、量子論の数学的基礎付け、およびエルゴード定理の数学的基礎付け」と答えた。この中に、「EDVAC報告書の第一次稿」は含まれていない。

文化大革命との遭遇

中嶋嶺雄

(東京外国語大学長)



一九六六年から六七、六八年にかけては、中国の文化大革命が大きく燃えあがった時期であり、また同時に私の人生にわたっての転換期でもあった。大学院に在学中の私は、六六年四月、母校で教鞭をとることになり、東京外大へ赴任した。

世界を震撼させた紅衛兵の大群が北京の天安門広場に出現したのは、その年の八月二十日のことである。すでに『現代中国論』などの著書も出していた私は、是

コンピュータの誕生が取り上げられる可能性が強い。

人類の歴史において、手や足の動作を補充・代替する道具は沢山作られてきた。しかし、頭脳の働きを補充し代替する機械は、二十世紀の中頃まで存在していなかったのである。コンピュータが歴史のこの段階まで登場しえなかったのは、いくつかの理由がある。とりわけ、機械的な部品では実用的なコンピュータは作れないから、電子管の登場は不可欠の条件であった。しかし、ハードウェアの技術的条件さえ満たされれば必ずコンピュータが登場したかといえ、そうともいえない。自動計算機械に対する需要は昔から存在しており、多数の試みがなされたが、それらは現存するコンピュータとは異質の設計思想によるものだったからである。そのような機械の部品を電子素子に置きかえたところで、現在のコンピュータにはならない。

コンピュータの論理設計における本質的なブレイクスルーは「EDVAC報告書の第一次稿」という何とも無愛想な題の文書で表明された。プログラムの内蔵を中絶して自分の目で状況を確認してみたかった。たまたま孫文生誕百周年記念訪中団の一団員として訪中する手筈が整ったのだが、当時は国家公務員の共産圏渡航が禁じられていて、折角の機会なのに文部省から許可が出なかった。人事院総裁に直訴し、ようやく渡航許可を得たのだが、訪中団はすでに出発しており、私は一行に遅れて単身訪中することになった。

六六年十一月十日、私は初めての外国としての香港に一泊した翌日、国境の深圳で半日も待たされた揚げ句に、ようやく共産中国の土を踏むことができた。国境を跨ぐやそこはもう文化大革命の紅衛兵が躍動している夜に北京に到着、

兵集団が騒動している夜に北京に到着、翌十一月十二日に人民大会堂で開かれた孫文生誕百周年記念の式典に何とか間に合ったのである。だが、壇上の中国要人のなかに肝心の劉少奇国家主席の姿がない。鄧小平党総書記もいない、と訝っていると、この両人だけが舞台の右手から遅れて登壇してきた。しかし、会場か

小学館



プラス96ページの
大幅ボリューム・アップ!

[View Point]
新登場!

最新版ホームページ
アドレス500

ISBN-09-526200-1

●ミレニアム特別企画

- 西部 週(評論家・秀明大学教授、高橋 紘(共同通信社)、夏目啓二(龍谷大学教授)、佐藤幸人(アジア経済研究所)の巻頭特別論文「21世紀ニッポンの読み方」を掲載。
- 90年代の事件・変革30テーマを選び、[View Point]としてわかりやすく解説。
- 世界が注目するキーパーソン100人を徹底分析。

[今年の主な新項目] 自由公選立/国旗・国歌法/中央省庁等改革関連法/国連東ティモール支援団/介護保険料/インターネットバンキング/地域振興券/火星探査計画/トルコ大地震/ブランド牛肉/宇多田ヒカル/まんが喫茶 他

DATAPAL
2000最新情報・用語事典 [データパル]



好評発売中!

30部以上一括ご購入の方に「名入れ」無料サービス!
●名入れに関するお問い合わせは小学館PS名入れ部(TEL03-5281-1625)までどうぞ。

ご希望の本がお近くの書店にない場合は、当社「登録者注文センター」がTEL又はFAXでご購入等のお問い合わせをお受けします。TEL-03-3230-5739 FAX-03-3230-0094
インターネット 小学館オンラインショップ http://www.shogakukan.co.jp

ビジネス・就職に必携の二冊

《21世紀への厳選情報》データベース

らは拍手も起こらず、報道陣のカメラもフラッシュを焚かない。その瞬間に私は、「これが文化大革命だ」と直感したのである。

式典の主役は周恩来総理だったが、毛沢東礼讃に終始し、最後には「毛語録」を振りかざして「毛沢東思想万歳!」「毛主席万歳、万歳!」としわがれ声で絶叫した。この間、劉少奇は苛々して顔面蒼白、禁煙のはずのヒナ壇で立て続けにタバコを吸っていた。彼は、この日を最後に二度と公衆の面前に姿を現すことなく、惨めな死を遂げたのであった。

一方、鄧小平はというと、「今に見ていろ!」といった凄惨な形相で周恩来をにらみつけていたのが印象深い。

やがて私は上海を訪れた。黄浦江沿岸の外灘には早くも各地の武闘の壁新聞が出ていた。それらを撮影していて紅衛兵糾察隊に追い回されたりもしたのだが、そのとき、路上で半分ちぎれたビラを拾った。そこには劉少奇が党内第一の実権派であり、第二の実権派は鄧小平であると書かれていた。当時はまだ文革がいかに恐ろしいか明確でなかっただけに、私は

これらの事実から、文化大革命を権力闘争の大衆運動化として位置づける視点を探して来たのである。

中国での貴重な文革体験の後、私は香港に約四十日滞在して研究と分析を続けた。その香港で私は、実に衝撃的な情報入手した。あれほどの権威を誇っている毛沢東が実は党内で孤立し、密かに北京を脱出して上海から文革の烽火をあげ、権力を奪回したのだという。この重要な情報をさまざまに検証してみると、それが真実であることを私は確信した。

当時私は、『読売新聞』の混成機動特派員を委嘱されていたので、帰国後、このストーリーを綴った記事を書いた。ところが一面全部を費やしたこの記事が発表される前夜、編集局会議でストップがかかったのである。筋書きがあまりにも衝撃的なので社としては掲載を中止し、その替り座談会を開いて私の発言として一部を発表することになった(同紙一九六七年一月二十三日付)。私の手元には、輪転機が回る直前の校正刷りが今も保存されている。

このような顛末を知った当時の『中央

公論』編集次長・柏谷一希氏は、同誌に思う存分書くことを勧めてくれた。私がつけた論文題名は「激動の中国から帰って」というものであったが、それを柏谷氏は「毛沢東北京脱出の真相」として発表し、『中央公論』一九六七年三月号)、国内外で大きな反響を呼んだ。

文革礼讃の論調が圧倒的だった当時のマスコミや論壇では、つらいことも多かったが、文革に遭遇したことによって、六八年秋から「造反有理」をふりかざしてキャンパスを封鎖した全共闘の学生諸君と対決したときにも、私は持説を展開して譲らなかつた。

私の文革体験のお蔭で、のちに副総統のとき来日された台湾の李登輝さんとお会いしたとき、開口一番、「私は『毛沢東北京脱出の真相』以来のファンです」と言われた光栄にも浴している。以来、李登輝さんご一家とは家族ぐるみのご厚誼をいただくようになった。

こうして文化大革命は私にとってのドラマでもあったが、この時期を通じて私は、若き日のマルクス主義への絆を明白に断つこともできたのである。

大正十二年一月三十一日第三種郵便物認可
平成十三年二月十五日発行(増刊)
第七十八巻第三号

文藝春秋

2月臨時増刊号

私たちが 生きた 20世紀

永久保存版
全篇書下ろし
362人の物語

文藝春秋
☆
私たちが生きた20世紀

永久保存版

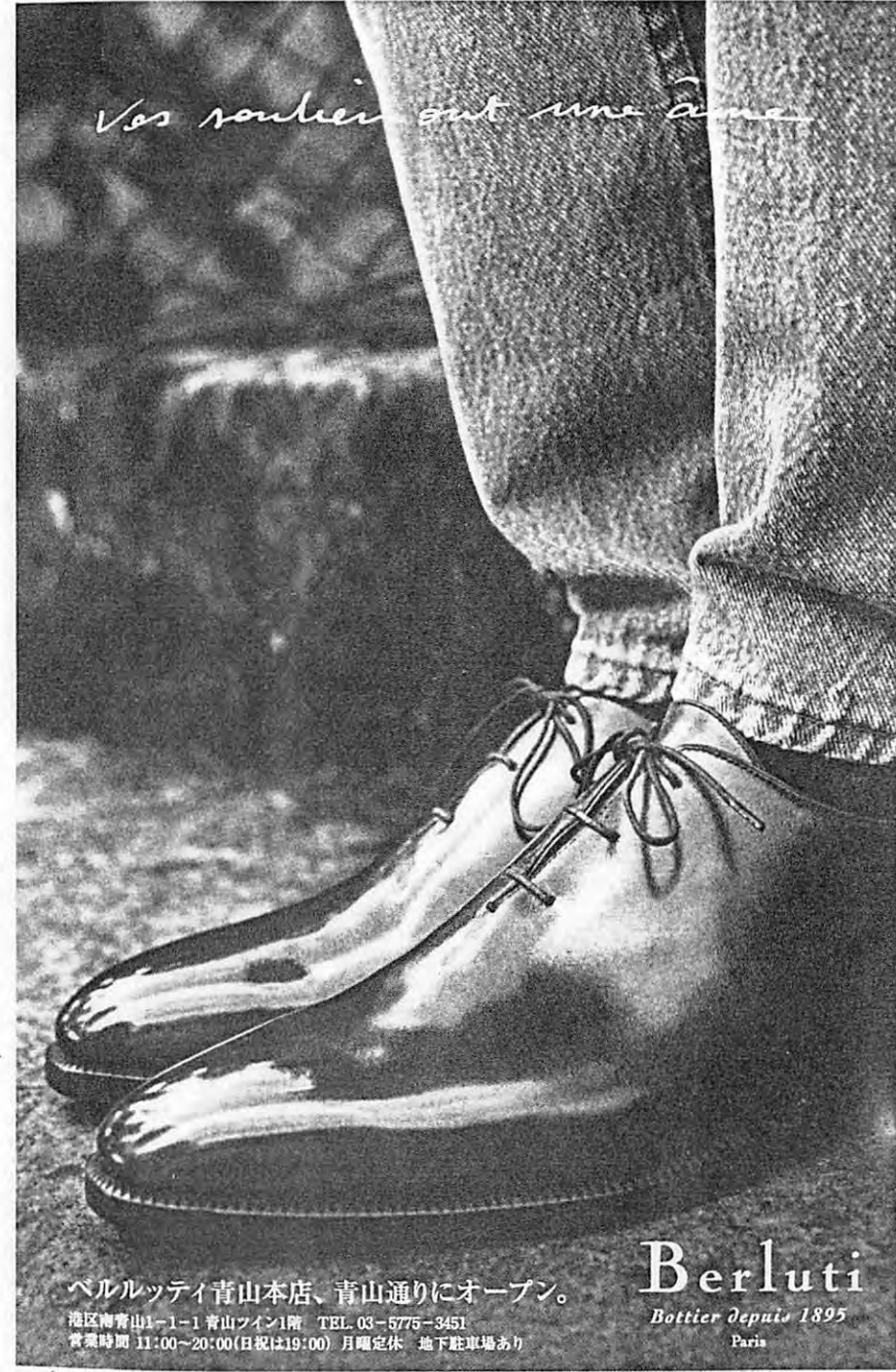
2月臨時増刊号

文藝春秋

二月臨時増刊

(第七十八巻 第三号)

定価九五〇円 本体九〇五円



ベルルッティ青山本店、青山通りにオープン。
港区神楽山1-1-1 青山ツイン1階 TEL. 03-5775-3451
営業時間 11:00~20:00(日祝は19:00) 月曜定休 地下駐車場あり

Berluti
Bottier depuis 1895
Paris

